

動物も家族の一員、 100%の責任と愛情を



たくさんの動物と家族同然の暮らしをしている1人のイギリス人女性がいる。日本の自然を愛し、1988年山あいの能勢町（大阪府）に、動物たちが安心して自由に過ごせる園を築きあげた。捨てられたり、恵まれなかった動物たちは、彼女によって保護され、愛情に満ちた生活を送っている。

今年1月の阪神淡路大震災によって行き場を失ったペットたちも次々に引き取られ、今後さらにその数は増えると言われている。

今回は、大阪で動物愛護の活動をしているエリザベス・オリバーさんに、動物保護、動物との暮らし方についてお話を伺った。

エリザベス・オリバーさん

1940年 イギリス南西部のウエストンスーパーメイヤース生まれ
1960年 ナッピンガム大学入学 酪農を専攻
1966年 日本に観光として初来日
1968年 ロンドン大学入学 1年間日本語を学ぶ。
1969年 再び来日し、大阪工業大学で英語を教える。

1988年 大阪府能勢町の農地を購入し、居を定め、ARKを設立する。
現在は、大阪工業大学の講師を務めながら、ARKで約180匹のイヌと100匹のネコ、馬、羊、ニワトリ、カモ、ガチョウ、ギンギツネと暮らしている。



インタビュアー
中央執行委員長 前川朋久